



子どもたち 先生方の笑顔のために

# 共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和5年9月8日発行

第13号

中信教育事務所

ご意見はこちら→ ←過去の「共に歩まん」はこちら

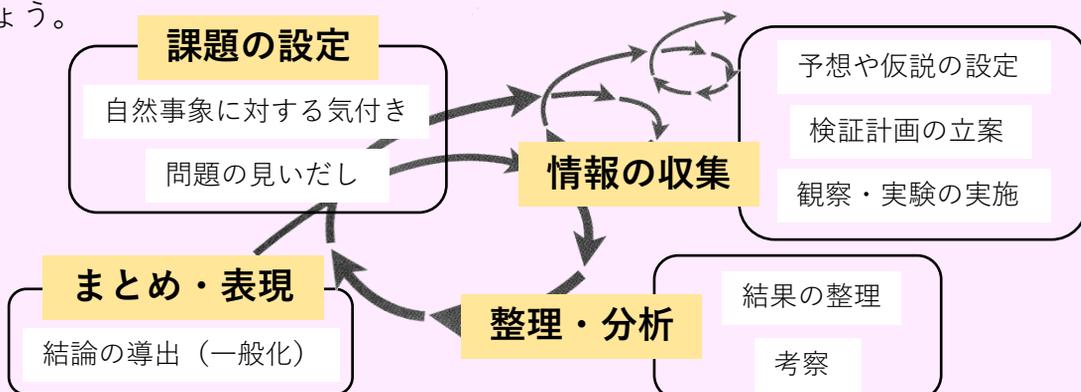
## シリーズⅡ 「探究する授業への挑戦①」 理科編

つな  
げる

長野県教育委員会は、令和5年度 教育課程・学習指導改善の目標として「一人の子ども取り残されない『多様性を包み込む』学びの推進」を掲げ、重点として資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善として「探究する授業」をあげています。理科における「探究する授業」について考えてみましょう。

### 理科における「探究する授業」のプロセス

「探究的な学習における児童の学習の姿」に、小学校理科の「問題解決の過程」を重ねて考えてみましょう。



「探究」とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていくことです。繰り返されるためには、子供が問題意識をもつことが重要です。子供の「問い」や「気付き」、こうやって調べてみたいという「願い」、こうなるはずだという「考え」を中心におき、問題解決の過程を繰り返していきましょう。

### 「振り返り」から子供の意識を捉え、「問い」を連続させていく

小学校  
第5学年  
「物のとけ方」

B児



<前時の振り返り>

食塩が水にとける量には何かきまりがあるんじゃないかな？

水の量が多いほどとける量は増えるはず。

お湯だとたくさんとけるから温度が高い方がたくさんとける！



前時、B児は、水の量や水の温度の違いによって食塩のとけ残りの量が違うことに気付き、「食塩がとける量には何かきまりがあるのでは？」という疑問をもちました。A先生が、B児の振り返りを全体に投げかけたところ、子供たちは既習内容や経験を基に、自分たちで調べたいことを考えていきました。その後、グループごとに問題を発表し合い、共通点を確認することを通して、「食塩やミョウバンをたくさんとかすにはどうしたらよいのだろうか」という問題が設定されました。子供たちは「水の量」や「温度」に着目しながら、自分たちが考えた方法で見通しをもって追究を行っていました。

事象提示から子供の発する「問い」や「気付き」を基に問題をつくっていくことと同じくらい、「振り返り」から子供の「問い」や「願い」を捉えていくことも大切なんだね。「探究する授業」とは、子供の意識を大切にした授業をつくっていかうという強いメッセージなんだね。

